

## 小さくても活躍します

平城宮・京を発掘していますと、時折このような小さい瓦が出土します。一般的な瓦からすると、ひと回り以上小さいサイズです。朱雀門に使われていた瓦と比較すると、その差は一目瞭然です（写真背景）。このような瓦はどのようにして使われていたのでしょうか。

実はこれらの瓦は、「瓦葺建物」には使われない変わり種なのです。平城宮・京には檜皮葺きの建物も存在していましたことがわかっていますが、その屋根の棟だけには瓦が用いられています。そして、棟の中でも「甍棟」と呼ばれる特殊な棟の飾りとして、これら小型の瓦が用いられているのです。同じ檜皮葺建物でも、「甍棟」が用いられるのはやや格式の高い建物であるため、内裏地区や東院地区からの出土例が目立ちます。

小さい瓦とはいえ、実は高貴のシンボルでもあるのです。（写真はいずれもほぼ実寸）

（都城発掘調査部 林 正憲）



朱雀門に使われた瓦

